



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2022年4月号

NO 547

こう言われているからです。人はみな、草のようです。その華やかさはすべて、草の花のように、草は枯れ、花は散る。

ペテロの手紙 1章24節

悲しい・恐れ・怒りの中で

大野 貞次

この冬は寒さが厳しく、凍える日々を送りましたが、この4月に入り、暖かさを感じる日が増えました。そんな中、また悲しみと怒りを感じる出来事が勃発しましたね。

ロシアによるウクライナに対する侵略、ウクライナの東部・南部地域での戦争の激化、首都近郊の激戦等、心を痛める毎日が続いています。1日も早く停戦し、平和が訪れることを祈るばかりです。

そんな中、私たちのクラブ活動は今年度の活動も残り3か月となりました。残り少なく頑張らなければと思いつつ、振り返るとその活動の実績が見えてきません。

新型コロナ感染症の恐れから、活動が収縮してしまっただめとも考えられますね。いずれにしても、コロナウイルスの感染が収まるのを祈りつつ活動を続けてまいりたいと思うこの頃です

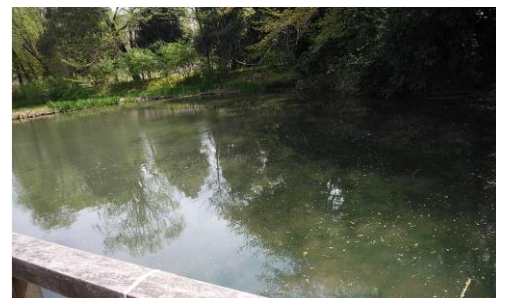
が、クラブ員の減少、高齢化等、いろいろな問題をかかえながらの活動ですが、少しでも輪を広げてまいりたいと思います。

幸いにしてわがクラブの活動の一環として行ってきたWHOが休眠状態からこの4月より活動開始というニュースがあり、少し明るさを感じられます。

それにしてもここに来て新型コロナウイルスの変異株「BA.2」なるものの感染再拡大が見えてきてるとの報道があり、万事すべての行動で感染しないように防御し、行って行かなければならないでしょう。

その上で新しい取り組みを考え、会員増強に努めるものとしなければと考えていますが、その方法が見つからないのが現状ですね。新しい年度を迎える7月以降に何か一つも見つければと祈るばかりです。

再開したWHOウォーク「野川下りシリーズ」第1回



野川の水源、姿見の池

3月に再開したWHOウォークは、4月には国分寺市の源流を発し、二子玉川の多摩川合流点まで5回～6回のシリーズで歩きます。

野川は、古代多摩川の南下によって生まれた西国分寺崖線から湧き出す清流を集めた全長約23kmの河川です。流域には、さまざまな見どころがあります。

第1回は源泉の恋ヶ窪の姿見の池から、都立殿ヶ谷戸庭園、小金井貫井神社を巡ります。

期日は4月23日(土)。詳しくは、p4をご覧ください。

クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

3月の記録		ニコニコ	－円
在籍者数 12人 (内功労会員) 1人	メ ネット 1人	クラブファンド	－円
出席者数 9人	コ メ ッ ト ー人	ファンド残高	113,308円
メーキャップ 1人	ビ ジ タ ー 0人	ホテ校ファンド	0円
出席率 91%	ゲ ス ト 0人	ホテ校残高	40,310円
内 Zoom 参加 0人	出席者合計 10人	WHO 参加者	32人

4 月例会のご案内

強調テーマ：

Week4Wast (環境のための週間)

グリーンプロジェクト

4 月例会の会場が、久しぶりに山手 YMCA センターとなります。

卓話は、府中市で年 3~4 回タウン誌を編集・発行を続けられている大沢稔さんに、難しさとやり甲斐を伺います。顔を知る読者、知らない読者をどう捉えるか、ニュースの掘り起こしの工夫など、私たちのブリテン編集の参考にもなると思い、楽しみにしています。

日時：4 月 21 日(木) 18:45~21:00

会場：山手 YMCA センター 03-3202-0342

担当：A 班 (大野、村野、本川)

HAPPY BIRTHDAY

15 日 鳥越 成代さん 30 日 横山 萌香さん

受付 大野 貞次
司会 篠原 文恵
鳥越 成代会長
大野 貞次
一 同
鳥越 成代会長

開会点鐘
聖句朗読・祈祷
ワイズソング
ゲストとビジター紹介
食事

**卓話 「町の変遷を見つめて40年ー
思い出いっぱい手作りのタウン誌」**

大沢 稔さん

ハッピーバースデー
諸報告
YMCA 報告
ニコニコ
閉会点鐘

横山 弥利
一 同
鳥越 成代会長

— 3 月事務会報告 —

日時：3 月 24 日(木)

19:00~20:40

会場：ウエルファーム杉並

出席者：大野、石井、篠原、高嶋、
村野、吉田

< 報告事項 >

- ①ハイブリットで行った東京世田谷クラブとの 3 月合同例会について感想を話し合った。
- ②3 月の数字を確認した。
- ③会計報告 (1 月~3 月) がなされ承認した。本年度の諸負担金は完納した。
- ④あずさ部評議会の出欠は各自、本川書記に伝える。
- ⑤WHO ウォーキングは再開を決め、3 月 26 日に善福寺川緑地で桜花を観る。その際にウクライナ支援募金を参加者にお願ひする。
- ⑥区の会員名簿の校正を行った。今年度の名簿についての要望が出た。

< 確認事項 >

・ 4 月例会

卓話：大沢 稔さん

「タウン誌の編集と発行」

会場：山手・ホテル学校

・ 5 月例会

卓話：氷室幸夫さん

「外郎売りと発声法」

・ 6 月例会

クラブ総会：

資料は昨年同様担当者が作成する。

ホテルの奨学金贈呈式：

ホテル関係の連絡・調整は横山主事に依頼する。

クラブ役員就任式：

立会人は、神谷さんまたは大野さんが行う。

・ 7 月例会

卓話：花輪豊子さんへの依頼を促進する。

4 月例会から、これまで控えていたゲスト、ビジターを招くことに注力する。

< 協議事項 >

①来年度第 1 回あずさ部評議会のホストについて

期日：7 月 16 日に決定している。

イメージ：この 2 年間はコロナでやむを得なかったが、今回は可能な限りリアルで行い、あずさ部の集まりが楽しみになるようにしたい。

会場：自由度のある山手センターを候補とする。

会費：5,000 円

プログラム：評議会部分は、決算評議会であるので、進行は後藤明久部長、具体的な報告

卓話者紹介

大沢 稔(おおさわ・みのる)さん

一橋大学卒業後、銀行に勤務、そこで美保子さんと出会い結婚した。銀行を退職し、小中学生対象の私塾「エミール学園」を開設する。

地元誌の編集長が高齢で引退し廃刊を知り、夫婦で「府中ファミリープラザ」(季刊)を創刊した。現在 140 号、5000 部を無料で発行している。創刊時から地元の 15 店舗が広告面で協力を続け、心触れ合うニュースを提供し、地元の好評を得ている。

は前年度の長谷川あや子直前部長以下の部役員、クラブ会長によるものとなる。その他の部分についてはクラブで立案して、後藤部長の意見を聞く。来月事務会で方向を話し合う。

②WHO 再開について、現在参加者は得られるがスタッフが手薄になっており、この対策を考えることが急務であることが語られた。

③ブリテン 4 月号について話し合った。(記録・吉田明弘)



「写真上」中央に両クラブ会長と東京世田谷クラブメンバー
「写真下」東京西クラブメンバー、ZOOM参加の方々と神谷夫妻が映っていないのが残念



－ 3月合同例会報告－

毎年3月は東京世田谷クラブとの合同例会が慣行となっていました。コロナ禍のために2020年と2021年は実施することができませんでした。東京世田谷クラブがリアルハイブリットで行うとのことなので合同で行うことができました。

日時・場所は、3月18日（金）18:30から19:30までの短縮で、東京YMCA南コミュニティーセンターで実施されました。

小川圭一さんの司会で、開会点鐘は峰毅・東京世田谷クラブ会長、ワイズソング・ワイズの信条は静かに朗唱、両会長により両クラブのメンバー・ゲスト・ビジターの紹介、聖書朗読と祈りはリモート出席の寺門文雄さんと進行して行きました。

メインプログラムは「高齢化社会における社協の働きと生涯現役ワイズへの期待」と題して、世田谷区社会福祉協議会の阿藤京子さんがスピーチされました。

卓話の後、子ども食堂の参加者をどうやってさがし、声をかけるのですかという質問には「最初は貧しい子、親に面倒を見てもらえ

ない子のイメージがあった。食堂に入ると友達に見られてからかわれるのではないか、お金がないのが分かってしまうのではという

心配があった。今は親子で来たり、孤食の人が来たり、大勢で食べる楽しさを味わえて、こどもだけでなく、社会にとって必要な場所になっている。50人分のちゃんとしたデザートを毎回届けてくれる人もあり、献立も豊か」という話でした。

阿藤さんは東京世田谷クラブのCS活動「YMCAすずらん会」発足当時の社協の担当者とのこと。こういう方と協働しておられることは素晴らしいことだと思います。その後定番のハッピーバースデー、結婚記念日、ニコニコ、諸報告と続いて、東京西クラブ会長・鳥越成代会長の閉会点鐘で定刻に終了しました。

（神谷幸男）

東京世田谷クラブ出席者：＜メンバー＞岩崎・小川・小原・川嶋・佐藤・松井・峰・三浦・村野・宮田、＜Zoom参加＞朝倉・秋田・寺門・小原（史）・久保田（貞）・高橋（里）、阿藤（卓話者）

東京西クラブの出席者：＜メンバー＞石井、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、＜メネット＞神谷

■ホテル学校では119人のホテルリエの卵たちの卒業式と校友会入会式を3月15日に霊南坂教会にて挙行了しました。また、同日にザ・リッツ・カールトン東京にて卒業パーティも行われ、新社会人として巣立つこの時期は寂しくもあり、誇らしくもありました。今後の活躍を期待して見送りました。

■全国のYMCAは4月30日を期限に「ウクライナ緊急支援募金」を開始しました。寄せられた募金は日本YMCA同盟を通して世界YMCA同盟に送られ、ウクライナYMCAが行う避難民への宿泊場所や食料品等の提供と子どもたちのケア、近隣諸国のYMCAが協力して行う国外避難民への緊急生活支援のために用います。なお、東京YMCAとウクライナYMCAは、20年にわたり子どもたちによるクリスマスメッセージ交換等の交流を続けています。

■東日本大震災11周年にあたり、仙台YMCAと石巻広域ワイズメンズクラブとの共催により「3.11追悼と感謝の会・記念礼拝」が開催されました。礼拝はオンラインで開催され、東京YMCAから会員・職員合わせて12人が出席しました。また、会員部を中心に都内のいくつかの拠点で、「東日本大震災11周年物産展」が実施されました。

■キャンプ等で積極的に活動している青年たちをYMCAのユースボランティアとして認証する制度「日本YMCAユースボランティア認証」によって、全国から16歳～35歳のユースボランティア318人に認証されました。東京YMCAからも24人が認証され、認証カード、ボランティア手帳等が贈られました。

（担当主事 横山弥利）



【写真上】ウクライナ緊急支援募金は、参加者だけから受け取りました。【写真左】善福寺川相生橋付近の満開の桜に歓声。

善福寺川の桜に歓声 再開したWHOウォーク

新しく完成した高層住宅街の沿道を花の名を口々に言いながら歩き、善福寺緑地に出た瞬間、皆が次々に歓声をあげました。そこは、善福寺川の天目橋の相生橋の中間の桜の最も美しい地点でしたが、出発寸前になって、「少し上流の方が良い」と参加者からアドバイスがあったのです。彼女とは杉並区のウォーキング講習会で一緒でした。

桜の見頃とウォーキング当日が一致することはこれまで一度もありませんでした。ウォーキングは原則毎月最終土曜日と決まっているからです

「最初良ければすべてよし」。再開後の初回とあって、ちょっとごちない雰囲気が一気に軽くなり、「雨が降ったら、そこでやめてもいいや」と。皆が気楽になりました。

善福寺川の河畔を「善福寺川緑地」と「和田堀公園」と切れ目なく続きます。緑地の方が植物公園の趣があり、各種樹林と子ども広場、スポーツ施設が、交互にあります。

「公園」の方は、戦前は、「大宮八幡遊園地」としてウォーターシューなどで賑わっていましたが、今はボート池が人手を入れず、小魚や野鳥の天国です（小魚にとっては天国かどうか聞いてみないとわかりませんが）。予想してい

た団体の花見はまったくありませんでした。飛来するカワセミや、営巣するオオタカを狙うカメラマンが目立ちました。

両岸の高台には縄文時代からの遺跡がありますが。今回は、歩け歩けに徹して、釣り堀り近くの小公園で昼食。最後は高台に上がり、源頼義、義家ゆかりの大宮八幡宮で解散しました。

参加者は 32 人。身体が慣れていないこともあり、休憩はたっぷり取って、ゆっくり歩きました。

最初は「途中で抜けます」と言われていた方も勢いに任せて最後まで歩かれました。無理は禁物。次回も、「そろり」と歩きます。

ワイズ関係参加者：石井、吉田、（東京西）、中澤、藤江（東京たんぼぼ）、岩崎（東京世田谷）、関（前・石巻広域）、岩崎さんには、熱海グローリークラブ時代にも参加してもらっています。

ウクライナ募金に協力

東京 YMCA のウクライナ緊急支援募金に協力して、3 月 26 日に行った WHO ウォークで参加者にご協力をお願いしました。

街頭で呼びかけるのではなく、事前に YMCA 作成の趣意書を WHO 参加呼びかけのチラシに同封して送り、当日、目立つ募金袋で集めました。合計 16,193 円が集まり、後日寄せられた 10,000 円とともに東京 YMCA に送金しました。（吉田明弘）

WHO ウォーク4月の案内

期 日：2022 年 4 月 23 日（土）
コース：JR 西国分寺駅—姿見の池—東山道武蔵路跡—押切橋—一里塚橋—殿ヶ谷戸庭園—次郎弁天の池—新次郎池—貫井神社—貫井大橋—ハケの小径—バス停—<バス>—JR 武蔵小金井駅

集 合：JR 西国分寺駅 10：00

解 散：JR 武蔵小金井駅 14 時頃
携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具

参加費：300 円、入園料など 100 円、初参加のかたは、名札代として 200 円

今回、脚力に自信のない方のために、テスト的にコース途中の殿ヶ谷戸庭園で終了する組をつくることにしました。

善光寺御開帳評議会

本年度最後の評議会が、5 月 14 日（土）長野市で「善光寺御開帳評議会」として開かれます。

主な内容は来年度に向けてですが、久しぶりに懇談会も予定されています。会費 5,000 円。

折しも 4 月 3 日からは、善光寺のご開帳。信濃路の旅と交遊も楽しみましょう。と同時に、来年度最初の部評議会を 7 月 16 日（土）にホストを務めるわが身にとっては、プログラム、運営、心くばりなど、ホストの長野クラブに学ぶチャンスでもあります。

☆☆☆ インタビュー ☆104☆
比奈地康晴さんに聴く
東京クラブ

* * *



—比奈地さんのお生まれは。

「1947 年にあべかわ餅でも有名な静岡市です、父は姫鏡台といわれる小型の家具の卸をやっていました。祖父の仕事の関係で東京育ちで、日本橋生まれだ！と言っていました。『比奈地』のオリジンは、浪曲『森の石松』の出身地とされる静岡県周智郡森町です」

—幼少期はどんな子でしたか。

「4人姉兄の末っ子で、のんびり育ちました。小学校では成績はまあまあ。級長もやらされましたが、活発というよりは、やりのんびり屋だったですね」

—中学、高校では。

「中学では、はじめ科学に興味があり、理科クラブなんかに入りましたが、興味とは裏腹に理数科の授業に段々追いつけなくなり、逆に英語に対する興味や外国への関心が増しました。高校は新設校に1期生として入り、部活は身長が伸びればと、バスケット部に入りました。ところが、教頭で部長の先生が、前の高校で国体優勝し、県でも有名な方でしたが、一方部員は中学時代バスケをやったことのない1年生ばかり。『君たちを大会に出すと私が恥をかく』と言われて対外試合は無し、身長も伸びないので、2年で辞めました。一方、市内にある教会の女性牧師さんが土曜日に英会話クラスをやっていたので、参加していました。そこで、他高の先輩から、『あんな科目別でなく、知能試験のような入学試験じゃ受

験勉強やっても駄目だな』と話しているのを聞いて、ICUを知り、これこそ『わが受験校！』と夏休みに大学見学に行きました。三鷹のキャンパスは衝撃的でした。戦前の中島飛行機工場の跡地で、広大な緑の敷地に校舎や学生寮や教員住宅が点在し、ハーフのゴルフコースもありました」
—日本語、英語が学内の共通語なんでしょう。

「1年時には、一般教養と英語の授業だけでした。専門は国際関係論でしたが、あまり勉強はしませんでしたね。体育の授業ではゴルフもやりました。有名な俳優も回っていました。大学院にも籍を置き、フルブライト奨学生としてアメリカの大学院に留学しました。フルブライトは旅費だけの支給でしたので、別に奨学金をもらえるプログラムを探して、アラバマ州境にあるフロリダの州立大学に行き、その後はニュージャージー州のニューヨークに近いところの州立大学にも在籍しましたが、ここでは奨学金も無く諦めました。実は、国連職員にと考えていて、よく国連にも出かけてリクルートしていたのですが、その頃は修士卒で採用される空席があまり無かったですね。米国からの帰りには半年間の世界旅行をして帰国してからユネスコ関係の文化交流事業の NGO に採用され、その後、国立教育研究所の研究協力者で出向したりした後に、埼玉大学に移り、留学生交流プログラム担当准教授に採用されて定年までいました」
—ワイズにはどうして。

「今も東京クラブで一緒の迫川由和さんが大学寮の同期生で、時々例会に興味深い卓話があると誘ってくれていました。さらに同クラブで大先輩の茅野徹郎さんや山本和さんがおられて、『どうだね、入らないかね』なんて言われてしまい、私も定年後何もしていなかったので入会しました」
—すぐになじめましたか。

「入会当初から、役員会などにも出席させてくれましたので、丁々発止の議論を大学の教授会同様にやるので、感心したりしました。入会3年目で会長になりました。当時東京クラブはベテランの方々はすでに経験済みで、若手、新人に就任させる情勢でした。私の前が加藤義孝さんでしたが、彼は入会4年目で会長になりましたし、私の後の会長も3年目でした。これは東京クラブの現状を映しています」

「会長以後、様々な役割で国内や海外のクラブとの接触する機会がありましたが、そのことを感じました。若いクラブさんは比較的新しいメンバーが、クラブや部で積極的に活躍されておられて素晴らしいと思いますが、東京クラブの場合は、なかなかクラブの次は部で、その次は区で、というように活動の場を発展的に広げていかれる方は少ないですね。私見ですが、クラブから部、区と共に働いてくれる方が少ないためではないかと感じています」

—2019年にBF代表として東南アフリカのザンビア、タンザニア、ケニア、ウガンダを30日間で訪問されましたね。

「入会した時、先輩会員の方々から、BF代表になって海外のクラブを訪問したらと勧められていたので、応募は大変でしたし、現地では1か所の滞在が1日か2日という強行軍でしたが、楽しめましたし、現地でお世話になった何人かの方々とは今も連絡がありますし、IBC締結をしたいという希望も受けています。ぜひこのBF代表派遣には挑戦していただきたいですね！」

—ワイズに入ってよかったと思うことは。

「NGO、大学と国際的な繋がりがありませんでしたが、ワイズでも新たな形で国際的な連携に関わっているのを感謝しています」
—有り難うございました。

(吉田明弘)

思い出を辿って④ 糸屋は今？

村野絢子

繁の父、村野佐一郎は父半十郎、母・てふ(ちょう)の9人兄弟の3男として都下福生に生まれた。明治半ばで糸屋という屋号のみ残った。

多くの村人で桑を育て、蚕を育て、糸を採り、糸巻で集め、絹糸の束は八王子の市場で値が付き、横浜から輸出していたのである。佐一郎の長姉・槇島さとから、昔盛んな時は、牛浜まで桑畑が続いていたと聞いた。名残の糸巻きと「本朱梅鉢参拾揃」と箱書きの器が手元にある。

佐一郎は、大正12年9月1日関東大震災で夫を亡くした姉のサトと2人で震災の翌年、下谷に酒屋を開いた。

弟の末男は高等小学校を出て、

福生信用購買組合に勤め、そこで簿記でバランスシート作成を学んだ。17才で腸チフスに罹る。末男は将来を考え23才で中軽井沢(旧杓掛)にて運転免許を取った。その直後、胸に異常を感じ、帰京後乾生肋膜炎と診断され1か月入院し、家で1年静養した。回復してから運転手として仕事をしたが、大阪で円タクが始まり、自分も姉の再婚した金持ちの夫、槇島さんから当時の1,600円を借金してT型フォードを購入し、円タクを始めた。金杉橋に兄と車2台入る車庫を借り、営業権を得てそこに移った。

面白いように稼いで半年で借金を返し、村野家の借金2000円を組合に返し、村野家の土地建物に戻った。昭和9年両親が相次いで死亡し、末男は家に戻り、立川農事試験場から10頭の羊を受け取り、近所の人にも飼ってもらい、ホームスパンを作り、中野の

洋服店に売り込んだ。

その後、養鶏を始め、東京都の委託種場として品種改良し手広くなったが、過労が過ぎ、また結核入院した。徐々に養鶏を始末し、米軍のハウスから始め、貸家業に転じ、今はアパートとマンション2棟のオーナーである。

一方、佐一郎は末男と同様に軽井沢で免許を取り、円タクを始めた。戦争中は軍属の運転手としてボルネオに行き、戦後、新しい産経新聞の専属運転手となり、後に新聞輸送の会社を作った。(1965年4月に私たちが結婚した時、村野タクシーと書かれた車庫の2階の2部屋が住まいであったのを思い出す)。機転の利く、末男叔父によって福生の糸屋は末男の長男芳雄が継いで今も健在である。

福生で生まれた父は永福で93才、末男叔父は96才、福生で旅立った。(註)文中の牛浜は現在の青梅線の隣駅付近の地名。

奈良の旅

本川悦子

今回の奈良訪問の目的の一つに山野辺の道を歩くことであった。山野辺の道は三輪から奈良へ通じる26キロの日本最古の古道です。そのうちの16キロが桜井から天理に通じる南コース、天理から奈良までの北コースです。

私たち(私と夫)は古墳、遺跡、社寺が多い南コースを天理から桜井に向かって南下しました。

JR天理駅を9時半に出発して、30分くらい歩いて最古の神社の一つと言われる石上神宮に着きました。境内は色鮮やかな尾長の鶏が放し飼いにされていて、神様のお使いと敬われています。また鶏の鳴き声を聴くとご利益があるとされています。

山野辺の道は一部東海道自然歩道に指定されていてハイキングコースになっています。道端には無人販売所が所々にあり今の時期は柑橘類が売られています



石上神宮で大切にされている尾長鶏。神様のお使いと敬われています

た。4個100円でデコポンを買って食べましたが美味しくて疲れが取れました。

古墳があちこちに見られ、特に第10代崇神天皇陵の古墳は幕末に改修されたこともあり、形が整っていて美しかったです。山容が美しい三輪山を眺めながら歩き日本最古の神社、大神神社に着いたのは5時半を回っていました。

神社を参拝して振り向いたら、真っ赤な夕日が沈んでいくところでした。桜井まではたどり着けませんが、万葉の風を感じ

ながら歩いて、とても気持ちの良いハイキングでした。機会があったら北コースも挑戦してみたいと思います。

編集後記

ワイズの大先輩でもあり、弓町本郷教会の大先輩でもありますが、元東京山手クラブの青鹿博明ワイズが3月20日に天に召されました。享年91歳でした。青鹿ワイズには、ワイズ活動に始まり教会での働きに対しても大変なご指導を受けましたので、悲しみも増すばかりです。

年度末の仕事に加え、体調も思わしくなかったため、またまたブリテン発行が遅れてしまい反省をしております。それでも多くの方から寄稿していただき感謝に堪えません。有難うございました。

新型コロナウイルスの終息、ウクライナでの戦争の終結、そして平和が訪れますように。(O.T)